

事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

I. 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期は、コロナ禍以降では、初めての全国的な行動制限の無い1年でありましたが、それでも重症化率は低いながらも感染力が高いBA5などの変異株が猛威を振るい、国内の旅行需要も大幅な改善は見られず、インバウンドにおいても引き続き低迷が続くなど、厳しい経営環境でありました。

こうした中での当社線のご利用状況であります。全体では前期に比べ8.7%増加しているものの、コロナ禍前の平成30年度比では▲16.2%と厳しい状況が継続しております。しかしながらこれまで回復が遅れていた定期外利用については、4月以降徐々に回復し前期比+33.2%となりました。特に3月のご利用はコロナ禍前の同時期の水準をも上回るものであり、今後の回復に期待を寄せているところであります。

一方、定期利用者については、通学では前期比+4.3%と一定の回復が見られるものの、通勤については前年をも下回る▲2.9%となっております。これは企業におけるテレワークの定着や自家用車通勤への切り替えに加え、コロナ禍で大きな打撃を受け離職者が多かった観光関連業において、お客様の回復状況に併せた雇用の確保が課題との報道もあり、こうしたことが影響しているものと考えております。

区 分	平成30年度 (コロナ禍前)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度 (前期) 増減比	平成30年度 (コロナ禍前) 増減比
定期外利用者	2,801千人	1,451千人	1,648千人	2,196千人	+33.2%	▲21.6%
定期利用者	6,500千人	4,948千人	5,525千人	5,602千人	+1.4%	▲13.8%
通勤	2,788千人	2,297千人	2,243千人	2,178千人	▲2.9%	▲21.9%
通学	3,712千人	2,651千人	3,282千人	3,424千人	+4.3%	▲7.8%
計	9,301千人	6,399千人	7,173千人	7,798千人	+8.7%	▲16.2%

この結果、当期の営業収益としては、旅客運輸収入991,373千円、鉄道線路使用料収入486,689千円、運輸雑収707,746千円の計2,185,809千円となりました。

一方、営業費用については、他社線の運賃改定に伴う券売機など販売機器管理システムの改修費のほか、車両の運行に欠かせない動力費の高騰に加え、当社所有七尾線車両の固定資産税の新規課税などがありましたが、これまで積極的に取り組んできた国、県補助金を活用した老朽設備の更新により、若干の減価償却費の増加はあったものの、施設の維持管理コストが減少し、全体では昨年実績並みの計2,112,392千円となりました。この結果、営業損益ベースで73,417千円と3期ぶりの黒字が確保出来たところであります。

前期に比べ110,925千円の改善であります。その主な要因は言うまでもなく営業収益128,229千円の増加によるものであり、先に説明した費用増がなければ、更に大きな収支改善が見込めたところでもあります。

次に、営業外損益については、国や自治体などから受託工事委託料収入及び鉄くず等工事発生品の売却等の収入が合計で141,130千円、受託工事に係る再委託費などの費用が118,614千円あり、これらを差し引いた経常損益は95,933千円の黒字となっております。更に特別利益としての67,286千円の補助金収入から、固定資産圧縮損などの特別損失49,795千円を差し引いた税引前当期純利益は、113,424千円の黒字となりました。そこから法人税等を差し引いた当期利益は87,122千円となり、2期連続の黒字が確保できました。

こうした厳しい経営環境下ではありましたが、お客様の安心安全を最優先に、国等の指導に基づき、新型コロナウイルス感染防止対策を継続しつつ、コロナ禍であっても出来得る新たな取り組みにもチャレンジしたところであります。

開業8年目の具体の取り組みであります。前期より進めてきた金沢大学附属小学校との連携による「愛がある夢がある」プロジェクトでは、著名アートディレクターと子どもたちが制作したポスターを車内中吊りに掲出するとともに、6月には、アートディレクターと子どもたちの乗車機会を提供いたしました。加えて、このポスターの掲出を夏休み一杯まで延長し、普段乗車機会がない子どもたちが家族と乗車する契機となるよう、大人1枚購入すると小人2枚が無料となる家族向けフリーきっぷを発売し、多くの方にご利用いただきました。

また、7月には、移転オープンする石川県立図書館とのコラボで、本の葉としても使えるデザインの1日フリーきっぷを夏休み期間中発売するとともに、オープン日を周知するポスターを車内中吊りでジャック掲出するなど、新たな連携の取り組みにもチャレンジしたところであります。

8月には、当社所有521系車両の親子でんしゃ教室を、9月には大人向け車両見学会を実施いたしました。これまでは対象を分けて、同一内容で2回実施してお

りましたが、今回は対象者を絞り、それぞれのニーズに応じた内容及び時間配分としたことで、参加した皆さんからは、「次回も参加したい。」「運転士、車掌とたくさん話ができて良かった。」など好意的なお声をいただいております、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

また、3月には、当社線で通学される高校卒業生を対象に、これまでの鉄道利用への感謝と新しい門出を祝福して、東金沢駅、森本駅、津幡駅において当社社員が制作したバルーンアートやメッセージボードを掲示したほか、エアリーフローラ（花）を配布し、ご好評をいただいたところであります。

一方、輸送の安全確保の取り組みとして、6月と10月には隣接する鉄道会社との合同で列車が駅間で故障・停車した場合を想定した列車救援の訓練を行ったほか、11月には昨年に続き警察・消防署員の方々にもご参加をいただき、地震発生時に列車が脱線したとの想定で、要救護者の迅速な救出を目的として総合事故対応訓練を実施いたしました。また大手民鉄での列車内殺傷事件を踏まえ、地元警察・消防の全面協力のもと、不審者対応訓練を実施したところであります。いずれも本番さながらの大変有意義な訓練となり、今後も連携を深めていきたいと考えております。

2. 対処すべき課題

政府より、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが季節性インフルエンザと同等の5類への移行が表明される中、金沢市内を中心にインバウンドの旅行者を目にする機会が多くなり、宿泊施設や飲食店なども従前の活気が戻りつつあります。

こうした中での鉄道利用については、年度替わりの送別会や歓迎会などの開催などもあり、定期外利用については改善の兆しを実感しているところであります。一方、通勤定期利用については、コロナ禍前の▲21.9%という状況であり、引き続き、アフターコロナに適応した利用者ニーズを探りながら、利便性の向上や利用促進に取り組むことで収入確保に努めるとともに、メンテナンスコストの削減策について検討、実施しながら、経営の安定化に努めることとしております。

2024年春まで1年を切り、本格化する金沢以西区間の経営移管の準備作業については、県のご支援、ご協力のもと着実に進めることとしております。

貸 借 対 照 表

令和 5 年 3 月 31 日 現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流 動 資 産	2,994,636	流 動 負 債	730,726
現金及び預金	2,375,464	未 払 金	521,545
未 収 運 賃	112,076	未 払 費 用	5,622
未 収 金	408,080	未 払 法 人 税 等	25,679
貯 蔵 品	61,688	未 払 消 費 税 等	30,513
前 払 金	20,200	預 り 連 絡 運 賃	42,103
前 払 費 用	16,480	前 受 運 賃	60,315
その他の流動資産	645	賞 与 引 当 金	39,276
		その他の流動負債	5,668
固 定 資 産	730,583	固 定 負 債	178,697
鉄道事業固定資産	707,358	退職給付引当金	16,361
建 設 仮 勘 定	13,358	役員退職慰労引当金	585
投資その他の資産	9,865	特別修繕引当金	154,750
差入保証金	2,200	圧縮未決算特別勘定	6,999
長期前払費用	7,665		
		負 債 合 計	909,423
		(純資産の部)	
		株 主 資 本	2,815,796
		資 本 金	2,006,000
		利 益 剰 余 金	809,796
		繰越利益剰余金	809,796
		純 資 産 合 計	2,815,796
資 産 合 計	3,725,219	負債・純資産合計	3,725,219

損 益 計 算 書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目		金	額
鉄 道 事 業			
営 業 収 益			2,185,809
営 業 費			2,112,392
営 業 利 益			73,417
営 業 外 収 益			
受託工事収入	131,970		
受 取 利 息	78		
雑 収 入	9,081		141,130
営 業 外 費 用			
受託工事支出	118,509		
雑 損 失	105		118,614
経 常 利 益			95,933
特 別 利 益			
補 助 金	67,286		67,286
特 別 損 失			
固定資産圧縮損	49,795		49,795
税引前当期純利益			113,424
法人税、住民税及び事業税	26,301		26,301
当 期 純 利 益			87,122

株主資本等変動計算書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位:千円)

	株主資本 利益剰余金				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本 合計	
		繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
令和 4 年 4 月 1 日 残高	2,006,000	722,673	722,673	2,728,673	2,728,673
事業年度中の変動額					
当期純利益		87,122	87,122	87,122	87,122
事業年度中の変動額合計	—	87,122	87,122	87,122	87,122
令和 5 年 3 月 31 日 残高	2,006,000	809,796	809,796	2,815,796	2,815,796